

4. 文化財の保存・活用に関する方針

4-1. 歴史文化遺産に関する調査の概要

(1) 実施済みの調査・研究

ア テーマごとの調査

本市域において、兵庫県教育委員会は、平成13年度の農村舞台調査や平成15～17年度の近代化遺産（建造物）調査、平成23～25年度の近代和風建築総合調査、平成24～26年度の広域に所在する文化財群の調査と活用に向けた播磨国風土記関連文化財群の調査などを実施してきた。また、県の景観部局では、平成18年度に建造物や町並み等の景観資源発掘調査を実施するなど、文化財部局以外の景観や自然環境などの関連する分野・テーマからの歴史文化遺産の調査も実施されてきた。

また、市民団体等においても、「加西石造文化研究会」による異形石仏等の研究、「鶉野平和祈念の碑苑保存会」（上谷昭夫氏など）による鶉野飛行場跡関連の歴史文化遺産の調査研究、「野上町文化財保存会」による野上町の歴史文化遺産の調査など、それぞれの活動テーマに沿った調査研究並びにその成果を活かした活用の取り組みが進められている。

加西市においても、歴史文化遺産の掘り起こしや実態の把握、価値の解明に向けて、これまで数多くの調査研究を実施してきた。中でも近年は、加西市の歴史文化と深く関連する「近代戦争遺跡」「祭礼」「石造物」をテーマとした調査を進めており、その内容は次のとおり概観できる。

① 近代戦争遺跡

第二次世界大戦後70年余が経過し、戦争を体験した人々が少なくなる中、近代戦争遺跡を保存・活用して戦争の悲惨さ、平和の大切さを語り継ぐとともに、地域の開発を推進するため、平成20～23年度に、鶉野飛行場跡地の活用検討に向けた調査を実施した。鶉野飛行場跡については、十数年来、地元住民が中心となる「鶉野平和祈念の碑苑保存会」が結成され、調査活動等が地道に行われていたこと、また、鶉野飛行場跡の一面に神戸大学農学部附属食資源教育研究センターが所在し、構内に数多くの基地施設が遺存していることから、加西市教育委員会では、保存会の調査成果等を参考にするとともに、神戸大学大学院人文学研究科との共同研究として、鶉野飛行場跡を歴史文化遺産として再評価するための学術的な基礎調査（鶉野飛行場関係歴史遺産基礎調査）を実施した。平成22年度には、市観光部局による鶉野飛行場跡をめぐる「戦争遺産バスツアー」の企画など、戦跡を観光資源として活用していく取り組みなども実施し、平成23年（2015）3月には、基礎調査の成果をとりまとめた『加西・鶉野飛行場跡』を発行した。



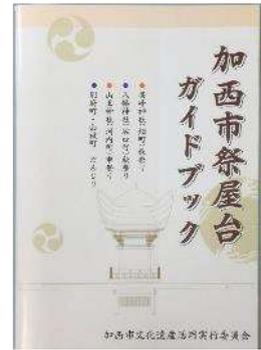
鶉野飛行場関係歴史遺産基礎調査の様子

一方、平成27年（2015）は、第一次世界大戦中の大正4年（1915）に開設された青野原俘虜収容所の100周年にあたる年であることから、加西市では、青野原俘虜収容所開設100周年事業として、資料展示や講演会、記念ウォークなどを実施した。その一環として、神戸大学大学院人文学研究科への委託研究として資料調査等を実施し、平成28年（2016）3月には、それらの成果等を取りまとめた冊子『加西に捕虜がいた頃－青野原収容所と世界－』を発行し、さらに、同書のドイツ語版も作成し、本市ホームページに掲載している。

② 祭礼

平成 23 年度には、北条節句祭活性化事業として、関連する各種市民団体の代表者と加西市とで構成する加西市歴史文化遺産活用活性化実行委員会により、北条節句祭の歴史や神事、各町の屋台等についての調査を実施し、平成 24 年（2012）3 月に『北条節句祭ガイドブック』を発行した。

また、平成 26 年度には、加西郷土研究会やヘリテージマネージャーと加西市が共同で、高峰神社（畑町）秋祭り、八幡神社（谷口町）秋祭り、山王神社（河内町）申祭りの各祭りと屋台、別府町と山枝町のだんじりについての調査を行い、平成 27 年（2015）3 月に『加西市祭屋台ガイドブック』を発行した。※【屋台】祭礼に用いられる山車の俗称。太鼓ともいう。



『加西市祭屋台
ガイドブック』

③ 石造物

本市の石造物については、古くから調査が進められてきたが、それらの成果をとりまとめ、平成 19 年（2007）3 月に、『加西市史』の別巻『加西の石仏』を発行した。同書では、加西市内の石仏・板碑に加え、層塔・宝塔・五輪塔・宝篋印塔・笠塔婆・鳥居といった石造建造物の計 107 件を個別に解説している。

平成 28 年度には、近世期の丸彫り地蔵菩薩立像の悉皆調査およびデータベース化を実施するとともに、五百羅漢石仏の総合的な調査を実施し『羅漢寺石仏群（五百羅漢）調査報告書』を作成した。

イ 埋蔵文化財

昭和 29 年（1954）の文化財保護法の改正により、土木工事に伴う事前届出制度を定めた埋蔵文化財の保護のための制度が定められた。昭和 35～37 年（1960～1962）の文部省文化局文化財保護委員会（現文化庁）による全国的な埋蔵文化財包蔵地の分布調査の結果を踏まえて「全国遺跡地図」が発行され、その後、地方公共団体による分布調査遺跡地図の発行等が進められていくこととなる。

播磨平野の中央部に位置する本市は、昔から風水害が少なく温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれたことから、数多くの埋蔵文化財包蔵地が確認されている。現在、本市の周知の埋蔵文化財包蔵地は計 823 件（集落跡 185、古墳 417、生産遺跡 142、寺社跡 36、城館跡 37、条里 4、祭祀跡 2）を数える。埋蔵文化財の発掘調査は、史跡玉丘古墳群の整備のための調査を除くと、そのほとんどが宅地開発や道路建設、ほ場整備事業、下水道工事などの開発や工事に伴う調査であり、近年は、年間約 10 件程度を実施してきている。

ウ 郷土史の研究

明治時代、近代化・産業化によって郷土が大きく変貌していく。これに対して記録を残そうとする意識が強くなり、全国的に郷土史、地方史の執筆が進められた。加西郡では、明治時代の終わりから『加西郡誌』の編さんが進められ、昭和 4 年（1929）7 月の昭和天皇の御大典記念として『加西郡誌』が発行された。また、昭和 19 年（1944）には『北條町誌』も発行された。

その後も各地域の郷土史家等による郷土史・地域史の研究が進められた。「加西郷土研究会」では、播磨地域の古文書研究等を進め、昭和 32 年（1957）創刊の『播磨郷土研究』は、平成 27 年（2015）に第 30 号を発行している。また、各地域の地域史では、昭和 54 年（1979）の『河内の里』（加西市河内町編）、平成元年（1989）の『桑原田町のあゆみ 桑原田町史』（菅野重雄編）、平成 3 年（1991）の『多加野の庄』（小川賢編）なども発行されている。また、平成 27 年（2015）には、野上町文化財保存会と神戸大

学、加西市教育委員会による共同調査の成果を踏まえ『野上町のむかしと今 野上町歴史遺産ガイドブック』を発行している。

市制 30 周年を機に、平成 9 年（1997）から『加西市史』の編さんを開始した。編さんにあたっては、加西市史編さん委員会のもとに、「考古」「古代史」「中世史」「近世史」「近現代史」「文化財」「自然」「民俗」の 8 専門部会を設置して、それぞれ専門分野の委員が調査・執筆にあたった。また、調査・執筆作業の進捗に合わせて、「加西市史編さん委員会だより」を発行して、情報提供・成果報告等を随時実施しながら発行に向けた作業が進められた。

平成 14 年（2002）9 月の『加西市史 第三巻（本編 3）自然』の発行を皮切りに、各巻の発行が順次進められ、平成 23 年（2011）3 月に最終となる『加西市史 第二巻（本編 2）近世・近現代』を発行し、『加西市史』全 10 巻の発行が完了した。この発行完了に先立ち、歴史文化遺産と史料の活用や今後の郷土史研究における行政の役割について考えるため、平成 22 年（2010）11 月には、『加西市史』刊行完了記念シンポジウムを開催した。『加西市史』の編さんにより、市域の歴史文化遺産がまとめられ、今後の文化財保存活用の基礎となった。一方、今後の研究が必要な歴史文化遺産も抽出されている。また、補足調査として平成 28 年度に未実測建造物の測量調査、宇仁地区の仏堂調査を実施、平成 30 年度には腰石積肥料舎調査を実施した。

（2）今後必要な調査

これまでに実施された調査などを整理し、未調査の項目や現状調査が必要な項目について代表的なものを下記に示す。ここで示す調査対象は、加西市史編さん時の悉皆調査において調査対象から外れたものや、詳細調査を行わなかったもの（『加西市史』未掲載対象）が中心となる。

表 4-1-1 今後必要な調査

寺社建築	<ul style="list-style-type: none"> ・市史編さん後の現状調査 ・集落祠堂の調査（持仏・備品・祭礼等総合的に調査を実施）
住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・農家建築（主に茅葺民家） ・民家の現状調査
その他建築物	<ul style="list-style-type: none"> ・近代繊維工場や倉庫など地域の生業を伝える建築物の調査 ・近代戦争遺跡の調査
石造物	<ul style="list-style-type: none"> ・寛文年間以降の石造物の調査（石仏、三角測量点・道路元標等） ・石垣や玉垣などの景観を構成する要素の調査 ・石の産業史の調査
土木構造物	<ul style="list-style-type: none"> ・分水岐、ため池、用水路などの市全域を対象とした調査 ・近代戦争遺跡に関する調査
古文書等	<ul style="list-style-type: none"> ・資料目録未掲載の新出の古文書、典籍、絵図、古資料、絵画等
説話や伝承	<ul style="list-style-type: none"> ・人物伝等の調査
生活・生業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生業（特産品等）とそれに関連する道具類の調査
庭園	<ul style="list-style-type: none"> ・寺院や民家の庭園に関する全般的な調査
動植物	<ul style="list-style-type: none"> ・ため池を含めた周辺環境の調査 ・景観を構成する重要な生け垣や樹木等の調査
集落景観	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の産業の繁栄を示す景観や農業景観などの文化的景観の調査
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・古地名・故地の記録 ・共同の井戸や洗い場などの水場調査

4-2. 歴史文化遺産の保存・活用の現状

(1) 保存

ア 文化財の指定等

加西市では着実に指定等の件数を増やし、令和2年(2020)3月現在、103件の指定等を数える(2-1(2)参照)。

近年では、平成30年(2018)3月には、北条の五百羅漢が県指定史跡に指定された。令和元年(2019)9月5日には、青野原俘虜収容所風呂棟が兵庫県の登録建築物に登録され、近代戦争遺跡の第一号の文化財となった。

これらの指定等を受けた文化財については、特に重要文化財の建造物の防災対策のため、毎年1月26日の文化財防火デー付近の日曜日には、酒見寺と法華山一乗寺において防火訓練を実施している。



青野原俘虜収容所風呂棟



法華山一乗寺防火訓練

イ 文化財指定以外の取り組み

加西市の中心市街地である北条地区は、古くは門前町として、江戸時代には在郷町の賑わいを見せていたが、東部新市街地への都市機能の移転や人口重心の移動などを背景に、空き店舗、空き家が多くなり、歴史的建造物が取り壊され駐車場に変わるなど、歴史的景観資源の喪失が進行していた。このような状況の改善を図るべく、加西市では、「北条まちづくり協議会」と連携し、旧市街地における歴史的景観資源等の活用やまちなみ保全等に向けた景観まちづくりに取り組んできた。平成24年(2012)4月には「北条地区歴史的景観形成地区」に指定され、この地区指定により、北条地区では、建築物・工作物の建築等の届出制度によって、歴史的な町並みの保全が図られている。また、平成22年(2010)3月には高井家住宅(北条町横尾)、平成28年(2016)3月には水田家住宅(北条町横尾)が、「景観の形成等に関する条例」(兵庫県)に基づく景観形成重要建造物に指定され、保存されている。

一方、自然環境では、播磨中部丘陵県立自然公園区域内の網引湿原では、地域住民によりあびき湿原保存会が組織され、湿原の保全を目的とした間伐や下刈り作業に取り組む一方、子どもから大人までが楽しむことができる観察会なども開催しており、令和2年3月に兵庫県の「天然記念物」に指定された。



あびき湿原保存会による
里山管理活動

この他にも、多くの町・区において、祭礼・行事の継承や寺社や堂・祠などの清掃等に取り組んでおり、建物や用具の老朽化等を背景に補修・修繕などを行う町・区も見られるなど、各町・区においても歴史文化遺産の保存・継承に向けた取り組みが続けられている。また、五百羅漢保存会、東光寺追儺式及び田遊び保存会、鶴野平和祈念の碑苑保存会、加西石造文化研究会、加西郷土研究会などの市民団体も組織され、加西市の歴史文化や歴史文化遺産の保存に取り組んでいる。

また、令和元年(2019)5月には、一乗寺を含む『1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～』が滋賀県、岐阜県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府5県(24市町村)によるシリアル型ストーリーとして日本遺産に認定された。

(2) 活用

ア 遺跡の整備

① 史跡玉丘古墳群

玉丘古墳は、昭和 18 年(1943)に史跡に指定された後、昭和 53 年(1978)には陪塚^{ぼいちよう} 2 基のほか、笹塚古墳^{ささづか}、マンジュウ古墳^{まんじゅう}、逆古墳^{さかさ}、北山古墳^{きたやま}、壇塔山古墳^{だんとうやま}、クワンス塚古墳^{くわんすづか}、実盛塚古墳^{さねもりづか}の計 9 基が追加指定され、玉丘古墳群として国指定史跡となった。その後、史跡指定地の公有化や発掘調査が進められる一方で、住宅建設など急速な都市化の波が押し寄せ、周辺では区画整理事業等も進められた。これに伴い、玉丘古墳群を背景として活用した歴史豊かな文化の薫る公園を整備する計画が浮上した。加西市では、平成 5 年度に「玉丘古墳等整備基本計画」、平成 6 年(1994)に「文化公園(玉丘史跡公園)基本計画」を策定し玉丘古墳周溝整備等を進め、さらに、平成 28 年(2016) 3 月に、史跡玉丘古墳群の中で、特に整備(修復)の緊急度の高い古墳について、整備(修復)、管理、運営を推進していくため、本市が取り組むべき基本的な方向を示す計画として「史跡玉丘古墳群整備(修復)基本計画」を策定した。本整備(修復)基本計画を基に、平成 30 年(2018) 9 月から笹塚古墳の整備工事が行われ、平成 31 年(2019) 4 月には史跡公園としてオープンした。また、整備完了を記念して講演会と現地説明会も実施された。



玉丘史跡公園

平成 5 年度に「玉丘古墳等整備基本計画」、平成 6 年(1994)に「文化公園(玉丘史跡公園)基本計画」を策定し玉丘古墳周溝整備等を進め、さらに、平成 28 年(2016) 3 月に、史跡玉丘古墳群の中で、特に整備(修復)の緊急度の高い古墳について、整備(修復)、管理、運営を推進していくため、本市が取り組むべき基本的な方向を示す計画として「史跡玉丘古墳群整備(修復)基本計画」を策定した。本整備(修復)基本計画を基に、平成 30 年(2018) 9 月から笹塚古墳の整備工事が行われ、平成 31 年(2019) 4 月には史跡公園としてオープンした。また、整備完了を記念して講演会と現地説明会も実施された。

② 鶉野飛行場跡

第二次世界大戦中に、姫路海軍航空隊のパイロット養成のための訓練基地として造られた鶉野飛行場やその周辺には、滑走路や防空壕などの基地施設が数多く残り、地域の開発と保存活用が行政課題の一つとなってきた。平成 28 年(2016) 6 月 16 日、国有財産近畿地方審議会で加西市への売却が適当との答申が出され、同月、払下げ手続きが完了した。これを受け加西市では、鶉野飛行場跡地及び周辺を近代戦争遺跡としての観光・平和学習施設や防災拠点、地域住民の憩いの場として整備するための整備計画を検討してきた。その結果、令和 4 年春完成予定の地域活性化拠点施設内には、実物大の紫電改レプリカ(平成 31 年 3 月完成)を展示する予定である。

平成 30 年(2018) 7 月には、平和ツーリズムを推進していくための「空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会」を加西市・宇佐市・鹿屋市・姫路市の 4 市で設立した。地方創生推進交付金を活用して「空がつなぐまち・ひとづくり交流事業」で共同でのプロモーションや人材育成、交流事業を進めることとともに、加西市の地域活性化拠点整備として「空の駅 フィールドステーション」を整備することとしている。

③ 城跡

山下城跡保存会では、山下城跡の木竹を伐採して、遊歩道や本丸跡への東屋を整備している。また、下里地区ふるさと創造会議では、善防山城が位置する善防山の登山コースを整備して看板を設置するなど、各種補助金を活用して、地域が主体となって城跡の活用のためのさまざまな整備を進めている。さらに、小谷城跡の整備や森林ボランティア講座の開講などを行っている小谷城跡保存会は、その活動が評価され、平成 30 年(2018) 12 月に兵庫県から「人間サイズのまちづくり賞」を受賞した。



山下城跡の憩いの広場

イ 北条旧市街地の整備

門前町・在郷町として発展した歴史を持つ北条旧市街地を対象に、まちの賑わい創出や移住・定住の

促進を主な目的として平成 27 年度（2015）から町並みの整備等に取り組んでいる。平成 29 年（2017）2 月に「北条旧市街地ビジョン～歴史文化を生かしたブランディング～」を策定した。そして、この構想を実現させるため、北条旧市街地を対象とした地域再生計画をとりまとめ「北条旧市街地元気なまち再生事業」として様々な事業を行っている。空き家を活用した拠点づくりの取り組みでは、平成 30 年（2018）4 月に「食べる・買う・体験」を通じて様々なコミュニケーションが生まれる地域に開かれたカフェ「Ocha no Ma（おちやのま）」、同年 5 月に地域交流広場「まちなか春陽堂」、平成 31 年（2019）4 月にゲストハウス「HOJO MACHI HOSTEL」、令和元年 6 月に播磨農高生が企画したレストラン「はりまのちっちゃな台所」がオープンしている。また、まちなかの賑わいづくりとして「北条を「食べる」会」や「イチガタツ～北条食の市」などのイベントを実施している。

ウ 北条鉄道の活用

大正 4 年（1915）に播州鉄道の路線として設置されてから 100 年以上も市民の足として愛されてきた北条線は、現在は北条鉄道として第 3 セクターによって運営されており、様々な取り組みが行われている。年間を通して、ビール列車やサンタ列車などイベント列車の運行、ステーションマスター（ボランティア駅長）によるパン工房や結婚相談所などとしての各駅の活用などが鉄道ファンなどを中心に注目を集めている。また、北条鉄道を利用した加西市のおすすめ観光ルートも提案されている。

エ 学習講座・講演会等

加西市では、平成 20 年（2008）3 月の『加西市史 第一巻（本編 1）考古・古代・中世』の発行後、同年 11 月から平成 29 年（2017）12 月まで毎月 1 回、「加西市史を読む会」を開催してきた。また、平成 24 年度からは、『播磨国風土記』の編さん 1300 年となる平成 27 年（2015）に向けて組織した加西市播磨国風土記 1300 年祭実行委員会主催により、「播磨国風土記講座」を開講している。また、中央公民館においても各種講座を開催するほか、市や民間団体等が主催となって、定期的に講演会やシンポジウムが開催されている。近年は、戦跡に関する取り組みを行っている他地域の団体との交流事業も積極的に実施しており、平成 30 年（2018）2 月には「はりま三飛行場を生かしたまちづくりシンポジウム」（主催：鶉野平和祈念の碑苑保存会）、同年 12 月には「空がつなぐまち・ひとづくり交流シンポジウム」（主催：空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会）が開催された。



「ふるさと加西再発見講座」

オ 歴史ウォーク・イベント等

歴史文化遺産を再発見し、歴史文化に触れる歴史ウォークなどの取り組みも数多く実施してきた。観光まちづくり協会と歴史街道ボランティアガイドが主催する「ふるさと再発見ハイキング」は、毎月 1 回程度の歴史ウォークを 10 年以上続けている。また、健康づくり、体力づくりを行うことを目的として、加西市文化・観光・スポーツ課が主催する「加西ロマンの里ウォーキング」も平成 31 年（2019）で第 16 回を数える。また、『播磨国風土記』の編さん 1300 年に関連して平成 25 年度から始められた神鉄ハイキング「播磨国風土記 1300 年の里記念ウォーク」も継続的に行われている。その他にも、中央公民館主催の歴史ウォークなど、歴史文化遺産を巡るさまざまな



歴史ウォーク
「みんなで歩こう」

ウォーキングイベントが開催されてきた。また、平成 29 年度からは、加西市健康課主催による「加西市歩くまちづくり条例」（平成 27 年（2015）4 月施行）並びに「加西市歩くまちづくり推進計画」（平成 28 年（2016）3 月策定）に基づく取り組みの実現化には、加西市の歴史文化が大きく寄与している。

歴史文化に関連する近年のイベントでは、平成 29 年（2017）で 10 回を数える北条町旧市街地を舞台に開催される「北条の宿はくらんかい」をはじめ、五百羅漢保存委員会・羅漢寺による「石彫り体験ワークショップ」、播磨農業高校郷土伝統文化継承クラブ（播州歌舞伎）と市内の伝統芸能団体の合同開催で行われる「ふれあい伝統芸能フェスティバル」、九会地区ふるさと創造会議・あびき湿原保存会による環境体験学習・自然観察イベントなどが、さまざまな主体によって継続的に実施されてきている。

また、平成 26 年（2014）からは、市内各地で約一か月間開催される「かさいまちあそび」が毎年継続的に実施されている。このイベントは、加西産の食材を使った料理教室や絶景スポットを巡るハイキングなど市内の豊富な地域資源「ヒト・モノ・コト」を活用した体験型プログラムである。



「北条の宿はくらんかい」



網引湿原における環境体験学習・自然観察イベント

カ 観光ガイド

本市では、「加西市歴史街道ボランティアガイド」が組織されている。北条の宿や五百羅漢や玉丘史跡公園をはじめ、一乗寺、鶉野飛行場跡周辺など、市全域にわたって幅広く観光ガイドを行っている。

また、加西市歴史街道ボランティアガイドの指導のもと、平成 17 年度より加西市立北条小学校の児童（5 年生・6 年生）が「北条小歴史ガイド隊」を結成し、五百羅漢、住吉神社、酒見寺において、加西市を訪れる多くの人々を案内している。その活動は、優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰も受けている。

平成 28 年（2016）からは、宇仁小学校においても「宇仁っ子ふるさとガイド隊」が結成され、その取り組みは広がりを見せてきている。



「加西市歴史街道ボランティアガイド」による案内風景



「北条小歴史ガイド隊」による案内風景

キ 担い手育成

東光寺追儺式及び田遊び保存会、市村子ども太鼓保存会、泉子ども太鼓保存会など、各地域で保存会が組織され、担い手の育成・行事の保存・継承に向けた取り組みが進められている。また、観光まちづくり協会では、平成 24 年度に「ふるさと加西応援団」を組織し、観光面から歴史文化を活かしたまちづくりを進めるための担い手の育成に取り組んでいる。

加えて、狂言師の野村萬斎氏の協力・指導のもと、平成 26 年（2014）に組織された「加西市子ども狂言塾」では、自分たちで『播磨国風土記』に記された「根日女」の物語を演じ、その成果は「加西市播磨国風土記 1300 年祭」などでも披露された。加西市の歴史文化として狂言を定着、育成するとともに、子どもの地域への誇りや愛着の醸成も期待できる取り組みである。



「加西市子ども狂言塾」の稽古風景

ク 特産品の開発

加西ブランド協議会では冬カボチャ「ダークホース」や黒毛和牛「ねひめビーフ」のブランド化に取り組んでおり、加西カレーなどの加工品の開発にも力を入れている。このほか播磨農業高校、根日女グリーンファームなどにより新たな特産品を開発する取り組みも行われている。本市はふるさと納税にも力を入れており、新しい特産品をはじめ、加西産の農作物・家電・雑貨・体験プログラムなどが返礼品として提供されている。寄付金は、「観光資源の維持・整備に関する事業」「鵜野飛行場跡地等歴史遺産の保存・活用に関する事業」など、歴史文化の活用に充当される項目もある。

ケ 情報発信

本市ホームページでは、「加西市デジタルミュージアム」を設け、地域の有形・無形の文化財等の静止画像・動画のデータを「美術作品」「文化財」「考古資料」「祭り・伝統行事」の4つのジャンルに分けて掲載しており、平成28年度の訪問数は合計約1,400件であった。また、観光まちづくり協会のホームページ「かさい観光Navi」では、歴史文化遺産の情報を数多く掲載・発信している。特に『播磨国風土記』については、ホームページ「播磨国風土記の里加西」を開設して、播磨国風土記に係る歴史文化遺産の解説や各種イベント情報などの発信などを行っている。また、根日女伝承については、加西市出身のマンガ家ななじ眺氏の協力を得て、マンガ本『ねひめのとき～根日女伝説×『パフェちっく』～』を制作するなどの取り組みも実施してきた。パンフレット類では、歴史文化テーマごとのパンフレットなど、数多く作成・発行されており、その多くは観光まちづくり協会のホームページで取得することができる。

現地を訪れた人々への情報提供等についてもさまざまな取り組みが実施されてきた。

その一つが歴史資料等の展示・公開である。本市では、北条鉄道北条町駅前に位置する「アステリアかさい」の3階に情報機能・交流機能をもつ「ねひめホール」、3・4階に加西市立図書館を設けており、これらを利用して、官民双方によるさまざまな展示等の催しが実施されてきた。

また、加西市旧図書館（北条町古坂）を改装した埋蔵文化財整理室では、埋蔵文化財に係る資料や出土した遺物、青野原俘虜収容所資料などを展示している。

加えて、平成29年（2017）にはフラワーセンター内に古代鏡展示館（兵庫県立考古博物館加西分館）が開館し、新たな歴史文化の拠点としての活用が進められている。

また、北条鉄道北条町駅待合室内に設置している加西市観光案内所のほか、観光まちづくり協会では、市内観光地10カ所に無料公衆無線LAN（Wi-Fi）を平成29年（2017）3月から供用開始しており、観光客の利便性の向上を図ることとしている。平成30年度（2018）には、多言語での観光マップの作成、市内に在住在勤の外国人から見た加西の魅力やまちの情報を多言語で発信していく観光アンバサダー事業を開始するなどインバウンドへの対応も徐々に進められている。平成30年（2018）、ICT



古代鏡展示館
（兵庫県立考古博物館加西分館）

（Information and Communication Technology）を利用した公式散策アプリ「REKINAVI」では、歴史遺産の紹介・説明・マップ表示のほか、普段公開されていない巨大防空壕・対空機銃座の内部を360度VRで再現、3D映像による解説を見ることができるようになっている。また、平成30年（2018）4月から6月に実施された『『播磨国風土記』ゆかりの地をめぐるスタンプラリー』はGPSを利用したモバイルスタンプラリーの方式で実施された。